

アルプス農村における住民の景観意識と景観保全： オーストリア・チロル州ナッターズ・ムッターズ2村の事例から

岡橋 秀典*

Rural inhabitant's consciousness to the landscape issues and the conservation problem in the Austrian Alps: A case study of two Tyrolean villages, Natters and Mutters

Hidenori OKAHASHI*

目 次

- | | |
|--------------------|----------------------|
| I. はじめに | V. 農村景観に対する評価と選好 |
| II. 対象地域の概観 | 1. 一般的な農村集落景観の評価と選好 |
| III. 回答者の社会属性と日常行動 | 2. 自村の景観についてのイメージと評価 |
| 1. 回答者の社会属性 | VI. 景観保全に関する意識と地域社会 |
| 2. 回答者の日常行動 | 1. 景観保全に関する意識 |
| IV. 現住村および農村一般の評価 | 2. 地域社会の構成と意識 |
| 1. 現住村の評価 | VII. おわりに |
| 2. 農村生活一般の評価 | |

I. はじめに

わが国では近年、農村景観保全の必要性が叫ばれている。その際、この方面の海外の先進的事例としてドイツをはじめヨーロッパの景観保全の在り方が政策面を中心に紹介されることが多い。確かに、そうした政策自体の内容とその効果を紹介・検討することは景観保全を進める上で重要と考えられるが、他方で景観保全のあり方自体が地域の文化や社会、風土などの地域的条件と関わり、地域性を色濃く有するため、政策を実現させている地域的なコンテクストを十分に捉えておくことが必要である。このような方面の考察はこれまであまりなされてこなかったが、岡橋(1995)では、アルプスの美しい山岳景観で知られるオーストリア・チロル州の農村に焦点を当て、そこにおける景観構造の特徴と景観保全の実態を把握し、さらにそれを支える地域的な基盤の考察を行った。その結果、山地農業の保護、空間整備政策、ドルフエアノイエリング(村落景観改善事業)といった景観に関

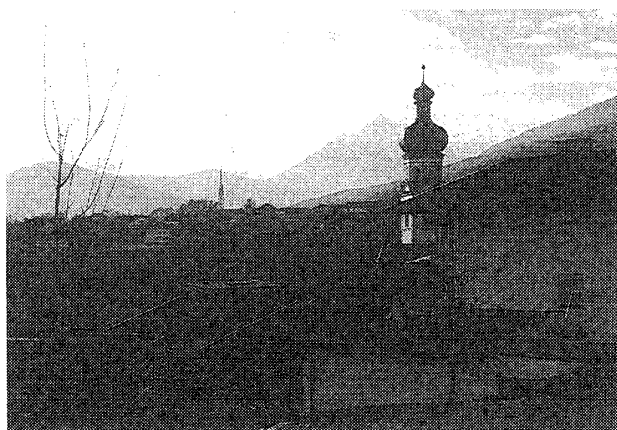
* 広島大学文学部： Faculty of Letters, Hiroshima University

わる政策が、この地域の景観の保全・整備に大きな役割を果たしていること、第2次世界大戦後のチロルの国際的山岳観光地としての広範な発展がこのような景観保全を促進する要素となっていることが明らかとなった。さらに重要な点として、そうした動きの根底には地域主義と結びついて景観保全に重きを置く住民の意思があることも示唆された。本稿は、このような岡橋(1995)の成果に立ち、その際、課題として残されていた、農村住民の景観に関する意識、さらにそれと景観保全との関わりを、景観の評価や選好、景観保全に関する意向を中心としたアンケート調査によって実証的に検討しようとするものである。

対象地域としては、チロル州の州都インスブルック市近郊の隣接する2村、ナッターズ村(Gemeinde Natters)とムッターズ村(Gemeinde Mutters)を選択した(写真A)。

その理由は、このうちの1つの村であるナッターズに筆者自身が1994年に約8ヶ月間居住し参与観察の機会をえたことが大きい。

また、隣村のムッターズ村も考察の対象としたのは、類似の環境にありながら両村間に景観面で大きな差異を認めただからである。すなわち、ナッターズ村では景観保全に目立った成果がなく、観光的要素も少ないのに対し、隣接のムッターズ村では中心部の景観保全が進み、観光化がより進んでいるという違いである。



写真A ナッターズ村とムッターズ村

手前の教会の塔のある村がナッターズ村、奥に見える塔のある村がムッターズ村である。(著者撮影)

景観に対する住民の意識を把握するため、1994年10月に郵送法によるアンケート調査を実施した。調査対象者の選定は以下のような方法で行った。まず、電話帳から各村ごとに、夫婦49組(男49名、女49名)、夫のみ25名、妻のみ20名を無作為に抽出し、さらに本地域の特性上、農民(男)5名、観光関係者10名(男5名、女5名)を加えた。この結果、両村ともに158名(男84名、女74名)が調査対象者としてリストアップされた。これらの対象者に調査票を郵送しアンケートを依頼したところ、対象者の死亡あるいは転居のため調査不能な者がナッターズ村で12名、ムッターズ村で4名発生した。それゆえ、実質的な有効調査対象者はナッターズ村146名、ムッターズ村154名となった。最終的な回答者数は、ナッターズ村で58名(男30名、女28名)、ムッターズ村で49名(男25名、女23名、性別不明1名)であったため、有効調査対象者に対する回収率は、ナッターズ村で39.7%、ムッターズ村で31.8%ということになる。この数値はこの種の調査としてはほぼ平均的なものと考えられる。なお、ナッターズ村で回収率がやや高いのは、この村に筆者が滞在してい

たため、調査対象者に一定の認知がなされていたことが影響した可能性がある。

本論文の構成は以下の通りである。まず次章で対象地域である2村の概観を行い、その特質を把握する。続く第III章ではアンケート結果を分析する際に必要となる回答者の基本的属性を確認する。第IV章から第VI章ではアンケート調査での回答内容を、回答者の属性との関係に留意しながら分析する。第IV章では自村および農村一般に対する評価を扱い、第V章では景観への評価とイメージを検討し、最後の第VI章では景観保全に対する住民の意識をドルフエアノイエリング事業に力点を置きながら考察する。

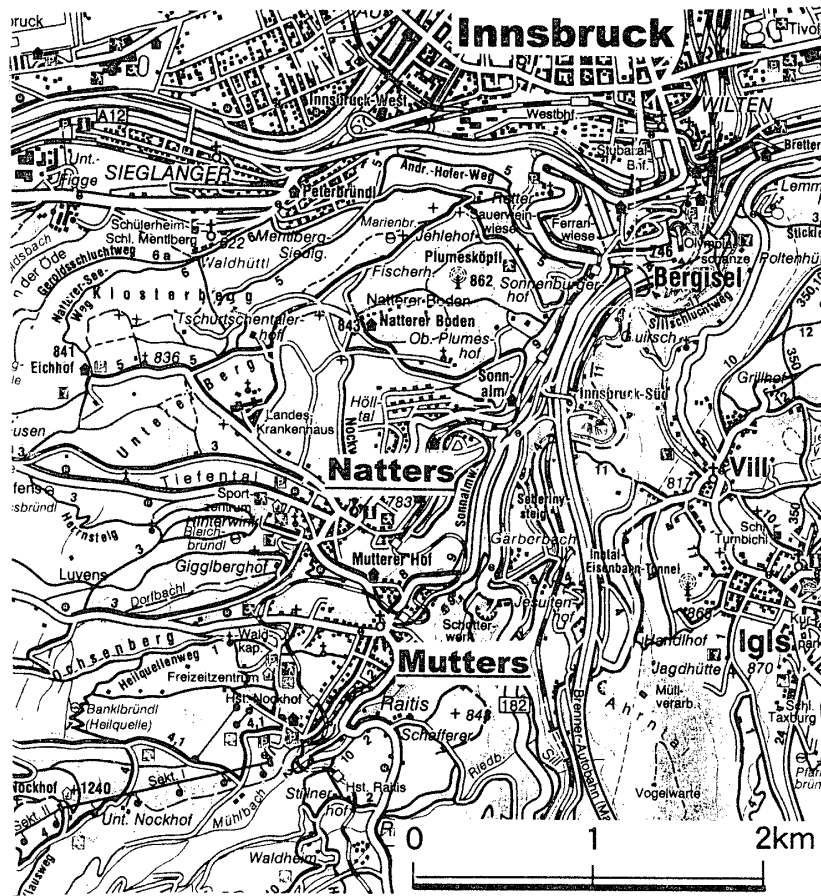
II. 対象地域の概観

本稿が対象としたナッターズ村とムッターズ村はゲマインデ (Gemeinde) に該当し、日本でいえば町村にあたる重要な地方自治の単位である。チロル州のゲマインデはここ100年以上ほとんど合併がなされておらず、小さい人口規模で伝統的地域社会が守られていることが多い¹⁾。それゆえ、村落共同体的性格の強い地域単位として特徴づけられる。ちなみに、人口(1991年)はナッターズ村1,788人、ムッターズ村1,793人で、両村ほぼ同数である。

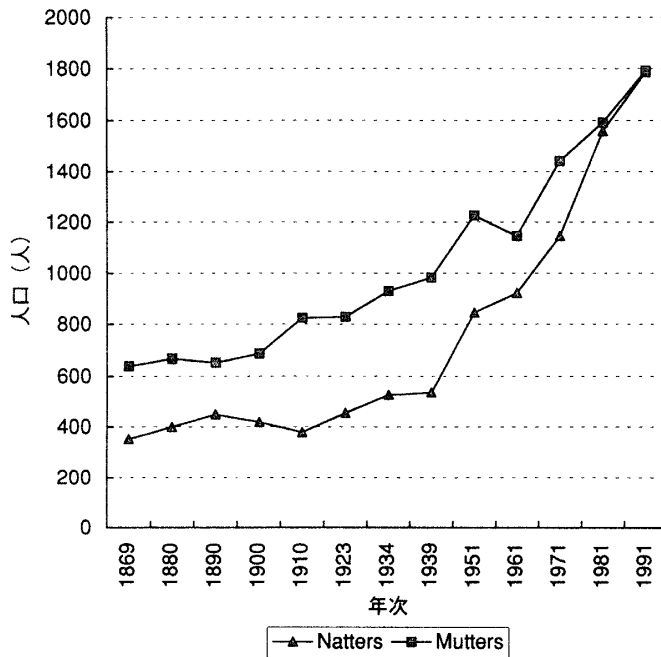
両村のあるチロル州はオーストリア西部に位置する山岳州で、人口は1991年現在で約63万人を数える。これはオーストリア全体(約780万人)の約8%に当たる。州域全体が高峻な東アルプスに含まれているため、夏季の長期休暇や冬季のスキーなどの観光需要に支えられて、第2次大戦後ヨーロッパ全体の山岳観光地として発展してきた。岡橋(1995)で述べたように、経済面での観光産業への依存度はきわめて高く、しかもそれが分散的で内発的なものであったところに大きな特徴がある²⁾。

ナッターズ村とムッターズ村は標高800m前後の山麓部に広がり、ともに上に述べたチロル州の特徴をもつが、さらに州都インスブルック(人口11万8千人)への近接が都市近郊農村としての特徴をも与えている(第1図)。インスブルック市へは約4kmであり、公共交通であるシュツバイタールバーンや高速道路を利用して短時間に到達することができる。

このような都市近郊としての性格は人口推移にも明瞭に現れている(第2図)。1900年代の中頃までは両村ともに停滞ないしは漸増傾向を示していたが、1940年代から急増しはじめ、1950年代に若干減少ないし停滞した後、1960年代から一貫して増加してきた。特にナッターズ村の方が増加が著しく、その結果、1900年代初めにあったムッターズ村との人口の格差がなくなり、肩を並べるに至っている。これはナッターズ村の方が住宅地の開発が進み、人口の流入が多かったためである。ただし、住宅団地のような形での規模の大き



第1図 ナッターズ・ムッターズ両村の位置と地域概観



第2図 ナッターズ・ムッターズ両村における人口の推移 (1869-1991)
資料: Volkszählung 1991, Wohnbevölkerung nach Gemeinden

い開発はみられない。

年齢構成では高齢化が極端でなく、流入人口もあってバランスのとれた構成となっている。60歳以上の比率は、ナッターズ村15.5%、ムッターズ村15.6%であり、0-15歳の幼年人口は、同じく17.8%、19.3%となっている。この数値はほぼチロル州全体と同レベルである。世帯数はムッターズ村621、ナッターズ村673で、1世帯当たり人口はナッターズ村2.6人、ムッターズ村2.9人である。

就業構成では、都市的な業種が多く、都市近郊の特徴が現れている（第1表）。まず常住者の就業先でみると、サービス業が30%前後を占め、もっとも多い。これに次ぐのが10%台の商業・倉庫業や製造業である。他方農林業就業者率は、ナッターズ村で2.6%、ムッターズ村で3.8%を占めるにすぎない。しかし、インスブルックに至近のため、通勤率はナッターズ村で76%、ムッターズ村で72%に達している。それゆえ、従業地ベースでみると、両村の間にはかなりの違いがみられる。ナッターズ村ではサービス業が50%を超えているのが目立つ。これに対し、ムッターズ村では宿泊・飲食店業が91人で27%を占め、もっとも高い。ナッターズ村では同業種は50人ととどまる。非労働力であるが、年金受給者が多いことも重要な特徴である。ナッターズ村で241人、ムッターズ村で236人であり、15%近くに及んでいる。

農家はナッターズ村に27戸、ムッターズ村に43戸ある。注目されるのは、都市に近接した地域ではあるが両村ともに専業農家が50%前後を占め、自立的な農業経営が一定の厚みをもって存在していることである（第2表）。この点は、35歳未満の恒常的農業従事者が

第1表 産業別就業構成

1) 常住地ベース

| | | 農林業 | エネルギー・ 水供給業 | 鉱業・土 石採掘業 | 製造業 | 建設業 | 商業・ 倉庫業 | 宿泊・ 飲食店業 | 運輸・ 通信業 | 金融・保険・ 不動産業 | サービス業 | 計 |
|--------|--------|-----|----------------|--------------|------|-----|------------|-------------|------------|----------------|-------|-------|
| ナッターズ村 | 実数 | 27 | 8 | 0 | 109 | 45 | 134 | 72 | 74 | 79 | 311 | 859 |
| | 構成比(%) | 3.1 | 0.9 | 0.0 | 12.7 | 5.2 | 15.6 | 8.4 | 8.6 | 9.2 | 36.2 | 100.0 |
| ムッターズ村 | 実数 | 30 | 20 | 1 | 137 | 37 | 146 | 113 | 67 | 77 | 230 | 858 |
| | 構成比(%) | 3.5 | 2.3 | 0.1 | 16.0 | 4.3 | 17.0 | 13.2 | 7.8 | 9.0 | 26.8 | 100.0 |

2) 従業地ベース

| | | 農林業 | エネルギー・ 水供給業 | 鉱業・土 石採掘業 | 製造業 | 建設業 | 商業・ 倉庫業 | 宿泊・ 飲食店業 | 運輸・ 通信業 | 金融・保険・ 不動産業 | サービス業 | 計 |
|--------|--------|-----|----------------|--------------|------|-----|------------|-------------|------------|----------------|-------|-------|
| ナッターズ村 | 実数 | 21 | 0 | 0 | 56 | 19 | 35 | 50 | 28 | 9 | 275 | 493 |
| | 構成比(%) | 4.3 | 0.0 | 0.0 | 11.4 | 3.9 | 7.1 | 10.1 | 5.7 | 1.8 | 55.8 | 100.0 |
| ムッターズ村 | 実数 | 29 | 1 | 1 | 36 | 13 | 46 | 91 | 31 | 31 | 57 | 336 |
| | 構成比(%) | 8.6 | 0.3 | 0.3 | 10.7 | 3.9 | 13.7 | 27.1 | 9.2 | 9.2 | 17.0 | 100.0 |

資料：Volkszählung 1991, Hauptergebnisse II, Tirol.

ナッターズ村で10名、ムッターズ村で11名みられることでも裏付けられる。ただ、1970年から1990年の間の農家構成の変化をみると、ナッターズ村で農家数が40%近く減少し、専業農家も半減していること、それに対しムッターズ村では、農家数、農家構成とも大きな変化がないといった差異が明瞭になる。経営耕地面積の規模（1990年）では、ナッターズ村で5～20haが90%を占めるのに対し、ムッターズ村は20～50haが約70%もあり、後者の方が規模が大きいことが明らかである（第3表）。1970年から1990年の推移からは、ナッターズ村で大規模層、小規模層がともに減り、5～20haに収斂してきたこと、ムッターズ村では30～50ha層の増加にみられるように、小規模層が減り、規模の大きい層へシフトする傾向がみられる。経営形態では、飼料作物栽培農家がナッターズ村で22で全体の約80%を、ムッターズ村では24で60%弱を占め、もっとも多い。ムッターズ村では、この他に林業経営農家が12、園芸農家が6あるが、特に前者の多さが目立つ。これはムッターズ村の村域が Nockspitze (2,403m) の山腹を含むことと関わる。ムッターズ村では、直接所得保障の対象となる山地農民（ベルクパウエルン）も24と総農家数の半数以上を占めるのに対し、ナッターズ村では2にとどまる。以上からみる限り、ナッターズ村では都市化の影

第2表 専業・兼業別農家数の推移

| | | 専業農家 | 第1種 兼業農家 | 第2種 兼業農家 | 法人経営 | 計 |
|--------|------|------|-------------|-------------|------|----|
| ナッターズ村 | 1970 | 23 | 7 | 10 | 2 | 42 |
| | 1980 | 16 | 7 | 8 | 1 | 32 |
| | 1990 | 12 | 2 | 13 | 0 | 27 |
| ムッターズ村 | 1970 | 25 | 3 | 16 | 2 | 46 |
| | 1980 | 17 | 4 | 22 | 1 | 44 |
| | 1990 | 23 | 2 | 17 | 1 | 43 |

注：各農家の定義は次の通り。

専業農家 (Vollerwerbsbetrieb)：農場経営主夫妻の年間農林業従事時間が年間総労働時間の90%以上

第1種兼業農家 (Zuerwerbsbetrieb)：農場経営主夫妻の年間農林業従事時間が年間総労働時間の50～90%

第2種兼業農家 (Nebenerwerbsbetrieb)：農場経営主夫妻の年間農林業従事時間が年間総労働時間の50%未満

資料：Land-und Forstwirtschaftliche Betriebszählung 1990, Länderheft Tirol.

第3表 経営耕地面積規模別農家数の推移

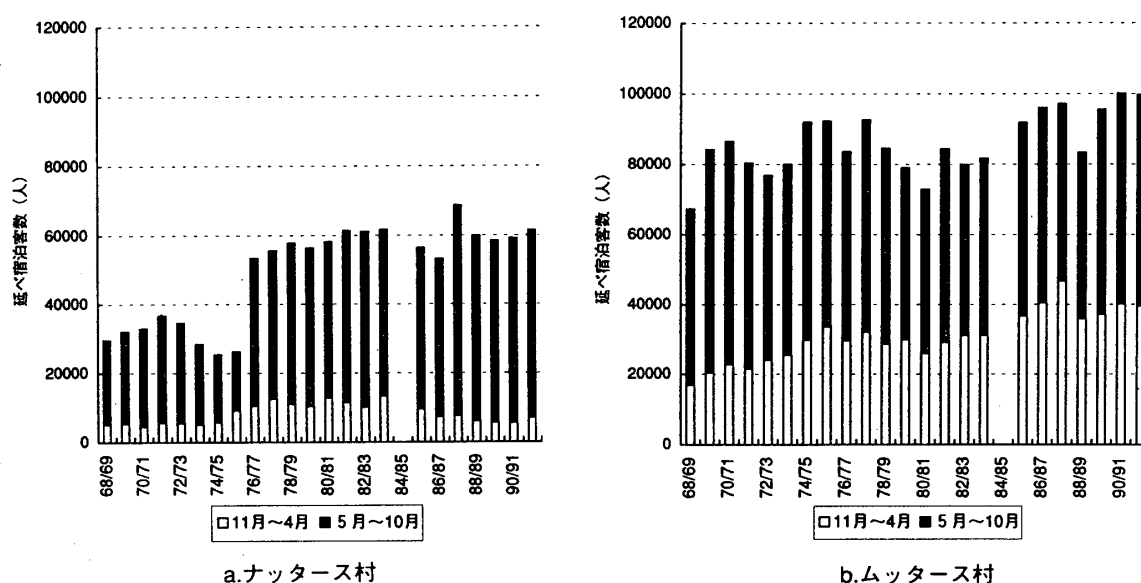
| | | ～2ha | 2～5 | 5～10 | 10～20 | 20～30 | 30～50 | 50～100 | 100～ | 計 |
|--------|------|------|-----|------|-------|-------|-------|--------|------|----|
| ナッターズ村 | 1970 | 4 | 5 | 19 | 11 | 2 | 0 | 0 | 1 | 42 |
| | 1980 | 2 | 2 | 3 | 19 | 5 | 1 | 0 | 0 | 32 |
| | 1990 | 1 | 1 | 12 | 12 | 1 | 0 | 0 | 0 | 27 |
| ムッターズ村 | 1970 | 3 | 3 | 3 | 12 | 20 | 5 | 0 | 0 | 46 |
| | 1980 | 0 | 3 | 3 | 7 | 18 | 12 | 1 | 0 | 44 |
| | 1990 | 1 | 3 | 0 | 9 | 16 | 13 | 1 | 0 | 43 |

資料：Land-und Forstwirtschaftliche Betriebszählung 1990, Länderheft Tirol.

響などで農業が後退しているのに対し、ムッターズ村では農業が維持されているといえよう。

農家が観光客用の部屋（Fremden Zimmer）を貸すことはチロルで広くみられ、農家にとって重要な収入源となっている。チロルの全農家は19,738戸あるが、そのうちの約30%にあたる6,006戸がこのような民宿を兼営している。本対象地域でもナッターズ村では民宿農家は4戸にとどまり少ないが、ムッターズ村では20戸と全農家の半数近くにも達する。山地農民の数の多さにみられるように、ムッターズ村の方が山地景観にめぐまれており、これが民宿農家の多さとも関わっていると考えられる。

このことから示唆されるように、両村ともに観光との関わりを有している。しかし、観光の様相はかなり異なる。1991/92年度の場合、宿泊施設（夏季）ではナッターズ村26に対し、ムッターズ村は83と3倍に達し、またベット数（夏季）でもナッターズ村247、ムッターズ村1,068となっていて、やはり後者が圧倒的に収容力大きい。これらから、ムッターズ村の方が観光地化の程度は強いことは容易に推測できる。Amt der Landesregierung（1987）が行ったクラスター分析による市町村の観光類型化作業では、最終的に5つの類型³⁾が示されているが、ナッターズ村が「観光化の弱いゲマインデ」に分類されているのに対し、ムッターズ村は「冬季観光の強いゲマインデ」に分類されている。年間の延べ宿泊客数をみると、ムッターズ村がナッターズ村の1.6倍となっており、さらに夏季（5月～10月）と冬季（11月～4月）に分けると、ナッターズ村は圧倒的に夏季に偏るのに対し、ムッターズ村は冬季が夏季の6～7割に達し、1年を通じた集客力があることがわかる（第3図）。これは特に、ムッターズ村の方には Nockspitze（2,403m）



第3図 夏季・冬季別宿泊客数の推移
 注：1984/85のみデータ欠損
 資料：ÖSTAT: Fremdenverkehr in Österreich

の山腹を利用したスキー場があり、冬季の集客力が高いことと関わる。このスキー場のザイルバーンが開通したのは1953年に遡る。

以上のように、この2村はインスブルックへ近いことから通勤者の多い近郊住宅地の様相をもっているが、その一方で同時に、程度の差はあるにせよ観光地的色彩も有している。それゆえ、景観意識の考察に際しては、住民の中でも新旧住民間の相違に留意する必要があるし、また観光との関連も考慮する必要があるといえよう。

III. 回答者の社会属性と日常行動

1. 回答者の社会属性

本アンケート調査で知り得た社会属性は、性別、年齢、職業、出生地、居住年数、長期居住地などである。ここでは、それらを概観しておく。

まず性別の人数では、ナッターズ村、ムッターズ村ともに男女ほぼ同数で大きな偏りはない（第4表）。年齢層では、ナッターズ村では40歳台がもっとも多いものの、30歳台、50歳台、60歳台も20%前後に達しており、30歳台以上の年齢層に広く分布している。これに対し、ムッターズ村では20歳台から60歳以上までどの年齢層にもサンプルが分布するが、60歳台が1名のみである一方50歳台に約40%が集中しており、やや年齢層の偏りがみられる（第4表）。職業的には、両村ともに多様であるが、会社員、年金生活者、主婦が各20%前後とやや多い。ナッターズ村では公務員が多いのが目立つ（第5表）。

この村を出生地とする者は、ナッターズ村で8名、ムッターズ村で12名あり、それぞれ全数の14%、25%を占めるにすぎない。つまり、何らかの形で転入してきた者が回答者の

第4表 性別・年齢階層別回答者数

1) ナッターズ村

| | 10～19歳 | 20～29 | 30～39 | 40～49 | 50～59 | 60～ | 計 |
|---|--------|-------|-------|-------|-------|-----|----|
| 男 | 1 | 2 | 4 | 8 | 6 | 9 | 30 |
| 女 | 0 | 0 | 6 | 10 | 8 | 4 | 28 |
| 計 | 1 | 2 | 10 | 18 | 14 | 13 | 58 |

2) ムッターズ村

| | 10～19歳 | 20～29 | 30～39 | 40～49 | 50～59 | 60～ | 計 |
|---|--------|-------|-------|-------|-------|-----|----|
| 男 | 2 | 2 | 3 | 11 | 6 | 1 | 25 |
| 女 | 1 | 7 | 3 | 9 | 3 | 0 | 23 |
| 計 | 3 | 9 | 6 | 20 | 9 | 1 | 48 |

資料：アンケート調査結果（1994年実施）

第5表 職業別回答者数

1) ナッターズ村

| | 労働者 | 会社員 | 公務員 | 自営業 | 自由業 | 年金生活者 | 失業・在学 | 家事(主婦) | 計 |
|---|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-------|--------|----|
| 男 | 2 | 7 | 9 | 2 | 2 | 7 | 1 | 0 | 30 |
| 女 | 0 | 5 | 4 | 1 | 3 | 5 | 0 | 10 | 28 |
| 計 | 2 | 12 | 13 | 3 | 5 | 12 | 1 | 10 | 58 |

2) ムッターズ村

| | 労働者 | 会社員 | 公務員 | 自営業 | 自由業 | 年金生活者 | 失業・在学 | 家事(主婦) | 計 |
|---|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-------|--------|----|
| 男 | 1 | 5 | 2 | 5 | 1 | 9 | 1 | 0 | 24 |
| 女 | 2 | 7 | 0 | 1 | 2 | 2 | 2 | 7 | 23 |
| 計 | 3 | 12 | 2 | 6 | 3 | 11 | 3 | 7 | 47 |

資料：アンケート調査結果（1994年実施）

多数を占めることが明らかである。転入者の両村での居住年数は、30年未満の者がほとんどで、ナッターズ村では39名、ムッターズ村では27名が該当し、両村ともに転入者総数の80%前後を占める（第6表）。10年未満と居住年数の短い者も、ナッターズ村で15名、ムッターズ村で6名存在する。こうした居住年数の分布は、両村で1960年代以降転入が続き人口が急増してきたこととほぼ対応している。

転入者の場合、居住年数20年が帰属意識という点で大きな意味をもつことが第7表から推測される。すなわち、Einheimischer（地付きの人）のみを対象にした設問に対する回答率をみると、20年を超えるとその比率がかなり高くなる傾向がある。これは20年以上定住している人の場合、自らをその土地の人と認識する傾向が高まることを示唆している。そこで、回答者を村内で生まれたか、転入してきたか、さらに転入者については20年以上住んでいるかどうかを基準にして回答者を分類すると、村内出生者、転入長期（20年以上）居住者、転入短期（20年未満）居住者の3区分が可能となる。本稿ではこれを居住歴類型と呼ぶことにする。

これまでもっとも長く居住した地域は、両村ともに現住村がもっとも多く、半数前後を占め、またチロル州内となると70～80%に達する。回答者の大部分はチロル出身者であるといえる。ナッターズ村では村内が41%ともっとも多く、チロル州内の都市部（22%）

第6表 転入者の居住年数

| | 1～9年 | 10～19 | 20～29 | 30～39 | 40～49 | 50～59 | 60～ | 不明 | 計 |
|--------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|----|----|
| ナッターズ村 | 15 | 10 | 14 | 2 | 2 | 3 | 0 | 4 | 50 |
| ムッターズ村 | 6 | 8 | 13 | 2 | 2 | 2 | 1 | 2 | 36 |

資料：アンケート調査結果（1994年実施）

第7表 Einheimischer (地付きの人) を対象とした質問への転入者の回答状況

1) ナッターズ村

| 居住年数 | 回答 | 無回答 | 計 |
|-------|----|-----|----|
| 1～9年 | 4 | 11 | 15 |
| 10～19 | 5 | 5 | 10 |
| 20～29 | 14 | 0 | 14 |
| 30～39 | 2 | 0 | 2 |
| 40～49 | 2 | 0 | 2 |
| 50～59 | 3 | 0 | 3 |
| 60～ | 0 | 0 | 0 |
| 不明 | 2 | 2 | 4 |
| 計 | 32 | 18 | 50 |

2) ムッターズ村

| 居住年数 | 回答 | 無回答 | 計 |
|-------|----|-----|----|
| 1～9年 | 1 | 5 | 6 |
| 10～19 | 5 | 3 | 8 |
| 20～29 | 10 | 3 | 13 |
| 30～39 | 2 | 0 | 2 |
| 40～49 | 2 | 0 | 2 |
| 50～59 | 0 | 2 | 2 |
| 60～ | 1 | 0 | 1 |
| 不明 | 2 | 0 | 2 |
| 計 | 23 | 13 | 36 |

資料：アンケート調査結果（1994年実施）

と他の村（9%）を合わせ、州内が72%を占める。州外では、オーストリアの他の州14%、外国10%がある。ムッターズ村は、村内が57%と圧倒的に多く、チロル州内の都市部の18%、チロル州内の他の村の5%を足すと、チロル州内だけで80%になる。

次章以下の分析では、これまでで明らかになった回答者属性のうち、特に性別、年齢、職業、居住歴類型との関係に留意しながら考察を進める。

2. 回答者の日常行動

アンケートから得られた日常行動に関する情報はそれほど多くはないが、通勤行動、余暇行動、農業経営や観光業との関わりをみておく。

回答者の従業地には両村の都市近郊としての特性が色濃く反映されている。インスブルック市に通勤する者が、ナッターズ村で約40%、ムッターズ村で25%に達する。これに対し、自村内も決して少なくなく25～30%ある。回答者は、インスブルック通勤者と村内従業者が大きく二分され、それら以外の地域への通勤はかなり少ない。

余暇行動は、景観に関する意識と関連があると考えられる。ここでは「余暇をどのように過ごしていますか」という質問に対して、あらかじめ用意された12の余暇活動から該当するものを選択することを求めた（第8表）。村内や周辺農村を歩く「ハイキング・散歩」が両村を通じてもっとも多いことがまず注目される。自然と景観にめぐまれ、散歩道の整備が進んでいるこの地域にあって、住民の余暇の過ごし方の中核を占めていることが明らかである。ナッターズ村ではそれが有効回答者総数の74%、ムッターズ村でも61%であり、しかも年齢層に関係なく中心的位置を占めている。余暇活動が農村居住と密接に関わる形でなされているといえよう。そのほかでは、自らの宅地内でできる、「屋内仕事」、「テレ

第8表 余暇の過ごし方（複数回答可）

1) ナッターズ村

| | 魚釣り | テレビ | 庭仕事 | 飲食店 | 養蜂 | 狩猟 | 読書 | スポーツ | クラブの 行事 | 教会行事 | ハイキン グ・散歩 | 屋内仕事 |
|---|-----|-----|-----|-----|----|----|----|------|------------|------|--------------|------|
| 男 | 0 | 15 | 16 | 5 | 1 | 0 | 13 | 13 | 4 | 2 | 20 | 13 |
| 女 | 0 | 11 | 16 | 0 | 0 | 0 | 15 | 12 | 0 | 5 | 23 | 11 |
| 計 | 0 | 26 | 32 | 5 | 1 | 0 | 28 | 25 | 4 | 7 | 43 | 24 |

2) ムッターズ村

| | 魚釣り | テレビ | 庭仕事 | 飲食店 | 養蜂 | 狩猟 | 読書 | スポーツ | クラブの 行事 | 教会行事 | ハイキン グ・散歩 | 屋内仕事 |
|---|-----|-----|-----|-----|----|----|----|------|------------|------|--------------|------|
| 男 | 3 | 8 | 8 | 5 | 0 | 1 | 8 | 17 | 3 | 2 | 16 | 11 |
| 女 | 1 | 8 | 8 | 0 | 1 | 0 | 10 | 11 | 2 | 3 | 14 | 9 |
| 計 | 4 | 16 | 16 | 5 | 1 | 1 | 18 | 28 | 5 | 5 | 30 | 20 |

注：設問「あなたはどのように余暇を過ごしていますか」（複数回答可）

資料：アンケート調査結果（1994年実施）

び」、「読書」、「庭仕事」が広く行われている。自宅の外へ出かける余暇では、上述の「ハイキング・散歩」のほかに、「スポーツ」が50%前後を占め比較的多い。「飲食店に出かける」者は10%程度であり、村内にこの種の施設がある割には少ない。「クラブに出かける」や「教会の行事に出かける」者も10%程度にとどまる。

上記の庭仕事と関連するが、菜園あるいは花壇を持つ者はナッターズ村では約80%、ムッターズ村では約90%と、圧倒的多数が庭仕事を日常的に行っており、そのことが地域の景観構成や景観意識にも影響を与えていると考えられる。また、菜園あるいは花壇を持つことの役割については、選択肢の中からの選択ではあるが、安価な食料や健康的な食料の確保といった実益を追求するものは少なく、「喜びと満足」が両村ともに80%近くと、圧倒的に重きが置かれているといえる（第9表）。

農地所有者は、回答者の内ナッターズ村で11名、ムッターズ村で7名である。ただし、そのうち農地を貸し付けている者がナッターズ村で6名、ムッターズ村で4名もあり、それらを差し引いたナッターズ村5名、ムッターズ村3名が実際に自分で耕作し農業経営に携わっている。これは実際の農家数の1割程度に当たる。他方、観光関係施設（ガストホッフ、ペンション、部屋貸し、休暇住宅）の経営に関わる者も、ナッターズ村で9名、ムッターズ村で6名あり、一定数を占めている。回答者の中に、両村の景観問題と密接に関わる農業や観光の関係者が一定数含まれていることを確認しておきたい。

第9表 花壇・菜園の役割についての見解

1) ナッターズ村

| | 労働と努力 | 喜びと満足 | 安価な食料 | 健康的な食料 | 不況時の安全確保 | 計 |
|---|-------|-------|-------|--------|----------|----|
| 男 | 2 | 20 | 0 | 3 | 0 | 25 |
| 女 | 1 | 17 | 0 | 3 | 1 | 22 |
| 計 | 3 | 37 | 0 | 6 | 1 | 47 |

2) ムッターズ村

| | 労働と努力 | 喜びと満足 | 安価な食料 | 健康的な食料 | 不況時の安全確保 | 計 |
|---|-------|-------|-------|--------|----------|----|
| 男 | 2 | 18 | 0 | 3 | 0 | 23 |
| 女 | 1 | 17 | 0 | 4 | 0 | 22 |
| 計 | 3 | 35 | 0 | 7 | 0 | 45 |

注：設問「あなたにとって庭がもつ第一の役割は何ですか」

資料：アンケート調査結果（1994年実施）

IV. 現住村および農村一般の評価

本章では、ナッターズ村とムッターズ村の住民がそれぞれの村をどのように評価しているか、また農村生活一般についてもどのような評価を有しているかを考察する。

1. 現住村の評価

最初に、現住する村での居住についてそれぞれの住民がどのように感じているかをみよう（第10表）。両村ともに高い評価が圧倒的に多いことが明らかである。「大変喜んで住んでいる」の割合は、ナッターズ村で77%、ムッターズ村で83%に達する。残りも「喜んで住んでいる」とする者がほとんどで、それをはっきり否定した者は1名もなかった。住民の現住村居住の評価は回答者の属性の如何を

第10表 居住の満足度

1) ナッターズ村

| | 「大変喜んで住んでいる」 | 「喜んで住んでいる」 | 「まあまあ」 | 計 |
|---|--------------|------------|--------|----|
| 男 | 22 | 7 | 1 | 30 |
| 女 | 23 | 5 | 0 | 28 |
| 計 | 45 | 12 | 1 | 58 |

2) ムッターズ村

| | 「大変喜んで住んでいる」 | 「喜んで住んでいる」 | 「まあまあ」 | 計 |
|---|--------------|------------|--------|----|
| 男 | 19 | 5 | 1 | 25 |
| 女 | 20 | 2 | 0 | 22 |
| 計 | 39 | 7 | 1 | 47 |

注：設問「あなたはこの村に喜んで住んでいますか」

資料：アンケート調査結果（1994年実施）

第11表 転入の理由

1) ナッターズ村

| | 「家族上の理由から」 | 「職業上の理由から」 | 「我々はこちらに家を建てた(家を買った)」 | 「我々は農村生活(静けさ、自然など)が好きだった」 | 「我々は村ではもっと多くの人間的なつきあいがあると期待した」 | 計 |
|---|------------|------------|-----------------------|---------------------------|--------------------------------|----|
| 男 | 7 | 1 | 7 | 7 | 0 | 22 |
| 女 | 2 | 1 | 7 | 8 | 1 | 19 |
| 計 | 9 | 2 | 14 | 15 | 1 | 41 |

2) ムッターズ村

| | 「家族上の理由から」 | 「職業上の理由から」 | 「我々はこちらに家を建てた(家を買った)」 | 「我々は農村生活(静けさ、自然など)が好きだった」 | 「我々は村ではもっと多くの人間的なつきあいがあると期待した」 | 計 |
|---|------------|------------|-----------------------|---------------------------|--------------------------------|----|
| 男 | 4 | 0 | 9 | 2 | 0 | 15 |
| 女 | 5 | 1 | 4 | 4 | 0 | 14 |
| 計 | 9 | 1 | 13 | 6 | 0 | 29 |

注：設問「なぜあなたはこの村に転入してきましたか」

資料：アンケート調査結果（1994年実施）

問わずおしなべて高いことが知られる。

都市近郊のこの地域では、住居を求めて新しく移住してきた人が少なからずみられる。これら新来者の2村に対する評価は、転入理由からも探ることができる（第11表）。「我々はこちらに家を建てた（家を買った）」のように住宅の建設や購入といった直接的理由をあげる者がナッターズ村で34%、ムッターズ村で45%を占めもっとも多い。しかし、他方で「我々は農村生活（静けさ、自然など）が好きだった」といった農村生活への選好を明確に表明する者も決して少なくない。ナッターズ村では37%と第1位を占めるほどである。こうした自然面の高い評価とは対照的に、村での人間的つきあいを理由とした者はほとんどみられなかった。景観的な面での農村の高い評価が、転入者を引きつける要素になっているといえよう。

逆に、地付きの人（Einheimischer）の自村評価を、新来者の転入要因をどのように考えるかという面から検討してみよう（第12表）。「なぜ他所の人がこの村へ移り住んでくると思いますか」との質問に対し、「都会の生活が気に入らないから」と考える者が両村を通じてもっとも多い。ナッターズ村ではそれが回答者の63%、ムッターズ村でも51%を占める。他方、「気持ちの良い村であるから」と予想する者も少なくなく、特にムッターズ村では43%にも達する。これらに対し、両村ともに「安く家を建てたり住むことができるから」とする者はごくわずかにすぎない。

上記の2つの質問への回答を比べてみると、新来者は住宅の入手という現実的理由を強調する者と農村の魅力を理由とする者に大きく二分され、前者の方がやや多いこと、地付きの人は都会と比べたときの農村的魅力を高く評価する傾向があることがわかる。現住地

第12表 地付きの人 (Einheimischer) からみた転入者の転入理由

1) ナッターズ村

| | 「安く家を建てたり住むことができるから」 | 「気持ちの良い村であるから」 | 「都会の生活が気に入らないから」 | 計 |
|---|----------------------|----------------|------------------|----|
| 男 | 3 | 4 | 14 | 21 |
| 女 | 0 | 8 | 11 | 19 |
| 計 | 3 | 12 | 25 | 40 |

2) ムッターズ村

| | 「安く家を建てたり住むことができるから」 | 「気持ちの良い村であるから」 | 「都会の生活が気に入らないから」 | 計 |
|---|----------------------|----------------|------------------|----|
| 男 | 2 | 9 | 10 | 21 |
| 女 | 0 | 6 | 8 | 14 |
| 計 | 2 | 15 | 18 | 35 |

注：設問「なぜ他所の人がこの村へ移り住んでくると思いますか」

資料：アンケート調査結果 (1994年実施)

第13表 農村生活の長所

1) ナッターズ村

| | 「ここでは都会よりも静かな生活を送ることができる」 | 「人々が都会よりも互いによく助け合う」 | 「ここではいつも自然との触れ合いがある」 | 「ここでは都会よりも大きな家が取得できる」 | 「住民が田舎のよさをもつ。都会では人間が性急である」 | 計 |
|---|---------------------------|---------------------|----------------------|-----------------------|----------------------------|----|
| 男 | 2 | 3 | 7 | 0 | 15 | 27 |
| 女 | 2 | 2 | 4 | 0 | 16 | 24 |
| 計 | 4 | 5 | 11 | 0 | 31 | 51 |

2) ムッターズ村

| | 「ここでは都会よりも静かな生活を送ることができる」 | 「人々が都会よりも互いによく助け合う」 | 「ここではいつも自然との触れ合いがある」 | 「ここでは都会よりも大きな家が取得できる」 | 「住民が田舎のよさをもつ。都会では人間が性急である」 | 計 |
|---|---------------------------|---------------------|----------------------|-----------------------|----------------------------|----|
| 男 | 6 | 0 | 1 | 0 | 16 | 23 |
| 女 | 1 | 0 | 1 | 0 | 15 | 17 |
| 計 | 7 | 0 | 2 | 0 | 31 | 40 |

注：設問「農村生活に長所があるとすれば、それは何ですか」

資料：アンケート調査結果 (1994年実施)

の評価について、新住民間で、さらに新旧住民間にも若干の落差があることが指摘できよう。

2. 農村生活一般の評価

ナッターズ村とムッターズ村に限定せずに農村生活一般への評価をみてみよう。ここでは農村生活の長所について、第13表のように5つの選択肢をあらかじめ与えた形で回答を求めた。両村ともに田舎の良さをもつ住民の性情をあげている。ナッターズ村ではそれが

回答者の60%を超え、さらにムッターズ村では回答者の80%近くにも達する。これに次ぐ回答は両村間で異なり、ナッターズ村では自然との触れ合いが20%程度を占めるのに対し、ムッターズ村では都会よりも静かな生活が20%弱を占める。これらに対し、大きな家を持つことを理由とする者はまったくみられなかった。都会よりも相互の扶助があることをあげた者もナッターズ村のみに10%認められただけである。男女差は総じてあまりないが、ムッターズ村の男性で静かな生活への志向がやや目立つ。居住歴類型別にみると、ナッターズ村では静かな生活や自然とのふれあいをあげているのは転入者のみである。他方ムッターズ村ではそのような傾向は特にみられない。

農村生活の短所については、両村とも雇用、教育、買い物などのインフラの不備がもっとも多く、この設問の回答者の半分を超える（第14表）。それ以外ではナッターズ村で「退屈である」が6人ありやや目立つが、そのうち5人は転入者であった。短所については、回答者自体が長所の場合に比べて大幅に少ないことからわかるように、特に短所はないと考える人がむしろ多いと考えられよう。実際、短所はないと明確に自由表記の形で答えたケースも3件あった。

以上の検討から、未だ断片的考察にとどまるが、ナッターズ村、ムッターズ村の住民が現住村での生活を高く評価していること、また農村生活一般についても肯定的な評価を与

第14表 農村生活の短所

1) ナッターズ村

| | 「インフラストラクチャーが劣悪である(例えば、雇用の場、教育施設、買い物の便における供給の悪さ)」「人との接触のチャンスが少ない」「何をすることも遠くまで出かけなければならない」 | | | | 計 |
|---|---|---|---|---|----|
| 男 | 6 | 0 | 1 | 5 | 12 |
| 女 | 10 | 2 | 2 | 1 | 15 |
| 計 | 16 | 2 | 3 | 6 | 27 |

2) ムッターズ村

| | 「インフラストラクチャーが劣悪である(例えば、雇用の場、教育施設、買い物の便における供給の悪さ)」「人との接触のチャンスが少ない」「何をすることも遠くまで出かけなければならない」 | | | | 計 |
|---|---|---|---|---|----|
| 男 | 9 | 0 | 4 | 1 | 14 |
| 女 | 7 | 0 | 1 | 2 | 10 |
| 計 | 16 | 0 | 5 | 3 | 24 |

注：設問「農村生活の短所をあげるとすれば、それは何ですか」

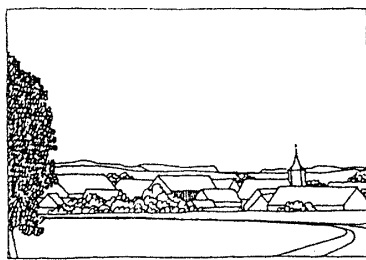
資料：アンケート調査結果（1994年実施）

えていることが判明した。農村生活の短所としてインフラストラクチャー面が指摘されているものの、住民の大半は農村生活のプラス面を高く評価し、享受しているとみることができる。

V. 農村景観に対する評価と選好

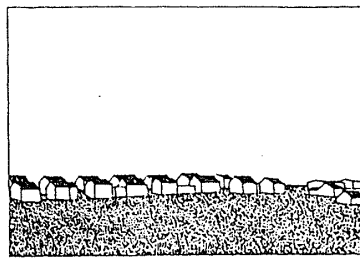
1. 一般的な農村集落景観の評価と選好

まず一般的な農村集落景観の評価であるが、この設問では地域の景色 (Ortsbild), 街路空間 (Strassenraum), 建物 (Bauobjekt) それぞれについて肯定的な事例と否定的な事例の2つからなる6つのスケッチを用意した(第4図)。Henkel (1982) によれば, スケッチ1 (S1) とスケッチ2 (S2) が地域の景色, スケッチ4 (S4) とスケッチ5 (S5) が街路空間, スケッチ3 (S3) とスケッチ6 (S6) が建物に該当し, いずれのカテゴリでも前者が肯定的な景観, 後者が否定的な景観とされている。それぞれのスケッチの特徴は第4図に記された通りである。これらについて, 「大変良い」を1, 「大変悪い」を



S 1 古い村落

盆地状の地形の中にあり, 統一的な屋根景観と特徴的な教会の塔をもち, 十分に緑化されている。



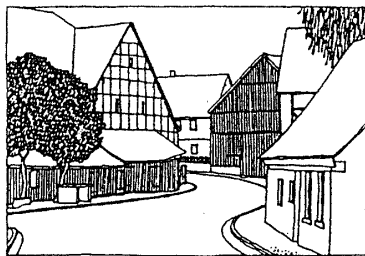
S 2 新築住宅の集落

画一的で, 緑化が成されておらず, 地形とも適合していない。



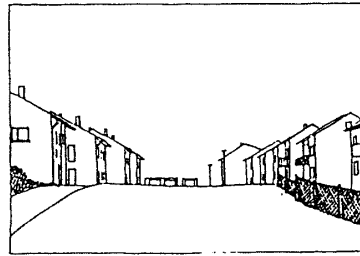
S 3 新しい住宅地

家が密集し, 大規模な空地がある。



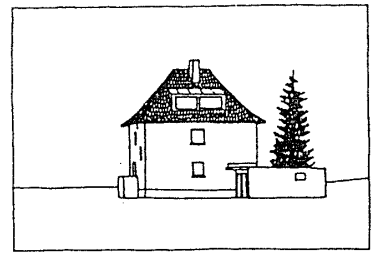
S 4 古い村落の街路空間

バラエティに富み, 家が密集し, 緑化されている。



S 5 新築住宅の街並み

堅苦しく型にはまっている。個別住宅の集まった状態が特徴的。



S 6 古い住宅

孤立しており, 増築部分, 車庫, 樹木のごとく細部にまとまりを欠いている。

第4図 農村集落景観評価の対象としたスケッチ群
Henkel (1982) による

第15表 農村集落景観の選好

1) ナッターズ村

| スケッチ番号 | 評価尺度（1：大変良い～6：大変悪い） | | | | | | 計 |
|--------|---------------------|----|----|----|----|----|----|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | |
| S 1 | 24 | 11 | 5 | 4 | 4 | 3 | 51 |
| S 2 | 0 | 1 | 1 | 15 | 14 | 20 | 51 |
| S 3 | 3 | 20 | 20 | 4 | 2 | 2 | 51 |
| S 4 | 16 | 14 | 12 | 6 | 2 | 1 | 51 |
| S 5 | 1 | 1 | 6 | 10 | 13 | 20 | 51 |
| S 6 | 7 | 6 | 12 | 12 | 6 | 8 | 51 |

2) ムッターズ村

| スケッチ番号 | 評価尺度（1：大変良い～6：大変悪い） | | | | | | 計 |
|--------|---------------------|----|----|----|----|----|----|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | |
| S 1 | 31 | 9 | 3 | 2 | 1 | 1 | 47 |
| S 2 | 0 | 1 | 4 | 8 | 14 | 20 | 47 |
| S 3 | 2 | 10 | 19 | 14 | 1 | 1 | 47 |
| S 4 | 9 | 18 | 13 | 5 | 1 | 1 | 47 |
| S 5 | 0 | 5 | 6 | 7 | 10 | 19 | 47 |
| S 6 | 5 | 8 | 7 | 10 | 10 | 7 | 47 |

注：設問「次のスケッチを1～6の数字で評定してください（1：大変良い，6：大変悪い）」
資料：アンケート調査結果（1994年実施）

6として，1から6の間の数字で景観の評価を行うことを求めた⁴⁾。

平均点では，両村ともに，S 1，S 4，S 3，S 6，S 5，S 2の順で，良好性の高い3より小さい数値を示すのは，S 1，S 4，S 3である（第15表）。これらは，いずれもHenkel（1982）で肯定的と考えられた事例であり，今回のアンケート調査でもこの一般的な見解と同様の結果が得られている。もっとも評価が高いのは，村の遠景を描いたS 1である。特にムッターズ村ではこのスケッチの評価が圧倒的に1に集中して高い。2番目に評価されているのは，S 4の伝統的な村の内部景観を描いたものである。S 3は3前後の数値であり，全体的には評価が高い方であるが，一部に4以下の評価も一定数あり，評価が分かれるのが特徴である。特にムッターズ村では4をつけた者が多く，そのため平均がナッターズ村の2.76に対し3.11となっている。これは，景観保全に積極的なムッターズ村では古い民家景観がよく維持されており，その分新しい住宅地景観への評価が低くなるとみることができよう。S 6は，平均値としては3点台の後半であり，極端に悪くはないが，評価の分布をみると，かなり意見が分かれている。1や2と高く評価する者もあれば5や6も少なくない。S 5は4点台の後半，S 2は5前後になっており，ともにおしな

第16表 家屋形態の選好

1) ナッターズ村

| | 古い農家住宅 | 改修済みの農家住宅 | 古い1戸建て住宅 | 新しい1戸建て住宅 | 集合住宅 | 計 |
|----------------|--------|-----------|----------|-----------|------|----|
| 村内出生者 | 0 | 5 | 0 | 2 | 0 | 7 |
| 転入長期居住者(20年以上) | 1 | 5 | 0 | 11 | 1 | 18 |
| 転入短期居住者(20年未満) | 1 | 6 | 4 | 13 | 1 | 25 |
| 計 | 2 | 16 | 4 | 26 | 2 | 50 |

2) ムッターズ村

| | 古い農家住宅 | 改修済みの農家住宅 | 古い1戸建て住宅 | 新しい1戸建て住宅 | 集合住宅 | 計 |
|----------------|--------|-----------|----------|-----------|------|----|
| 村内出生者 | 0 | 4 | 0 | 7 | 0 | 11 |
| 転入長期居住者(20年以上) | 0 | 3 | 0 | 14 | 0 | 17 |
| 転入短期居住者(20年未満) | 0 | 2 | 1 | 8 | 2 | 13 |
| 計 | 0 | 9 | 1 | 29 | 2 | 41 |

注：設問「お金に関係なく自由に選ぶことができるとすれば、どの家がよいですか」

資料：アンケート調査結果（1994年実施）

べて評価が低い。2つのスケッチに表された画一的な景観が問題となっていると考えられよう。

回答者の属性との関連では、男女で評価が分かれるものがある。S4とS5であり、ともに男性ではかなり評価が高い方に傾くのにに対し、女性の場合はそれほど高くない傾向が認められる。居住歴類型別では両村に共通の傾向はみられないが、ナッターズ村ではS1について村内出生者がおしなべて高い評価を与えるのに対し、転入者にはかなり低い評価を与える群が一定数存在することが注目される。

次に農村集落景観の重要な構成要素である家屋への選好をいくつかの側面から検討した(第16表)。「お金と関係なく自由に選べたら、どんな家がよいですか」という家屋形態の好みに関する質問では、両村ともに「新しい1戸建て住宅」が1位でもっとも多いものの、改修された農家住宅への指向も少なくない。ナッターズ村では「新しい1戸建て住宅」がもっとも多く半分を占めるが、「改修済みの農家住宅」も約30%ある。ムッターズ村では「新しい1戸建て住宅」の割合が高く71%にもなるが、やはり「改修済みの農家住宅」が20%程度存在する。農家住宅の伝統的景観がよく保存され、観光の対象にもなっているムッターズ村の方が、そうでないナッターズ村より「改修済みの農家住宅」の選好が低いというのは興味深い傾向である。「改修済みの農家住宅」を指向する者だけを、居住歴類型別にみると、村内出生者でその比率が高いが、転入者にも比率は少ないものの一定の指向性はみられる。この場合もナッターズ村の方がムッターズ村より高い点が注目される。

家屋景観を特徴づける家の素材についての好みでは、木材が圧倒的に高い支持を得てお

第17表 家の素材についての選好

1) ナッターズ村

| | 屋根瓦 | しっくい | 木材 | れんが | ガラス | コンクリート | 銅板 | 亜鉛板 | 鋼鉄 | 錬鉄 | アルミニウム | 人造石 |
|---|-----|------|----|-----|-----|--------|----|-----|----|----|--------|-----|
| 男 | 24 | 17 | 27 | 2 | 11 | 3 | 14 | 0 | 1 | 4 | 0 | 5 |
| 女 | 25 | 16 | 25 | 4 | 17 | 1 | 11 | 0 | 0 | 4 | 0 | 3 |
| 計 | 49 | 33 | 52 | 6 | 28 | 4 | 25 | 0 | 1 | 8 | 0 | 8 |

2) ムッターズ村

| | 屋根瓦 | しっくい | 木材 | れんが | ガラス | コンクリート | 銅板 | 亜鉛板 | 鋼鉄 | 錬鉄 | アルミニウム | 人造石 |
|---|-----|------|----|-----|-----|--------|----|-----|----|----|--------|-----|
| 男 | 23 | 16 | 25 | 2 | 8 | 7 | 13 | 0 | 1 | 13 | 0 | 1 |
| 女 | 18 | 9 | 21 | 0 | 10 | 3 | 8 | 0 | 0 | 7 | 1 | 1 |
| 計 | 41 | 25 | 46 | 2 | 18 | 10 | 21 | 0 | 1 | 20 | 1 | 2 |

注：設問「あなた自身の家に使いたい好みの素材は何ですか」（複数回答可）

資料：アンケート調査結果（1994年実施）

り、両村ともに90%を超える（第17表）。屋根瓦もそれに匹敵するほど指向が強く85%前後の支持が集まる。木材を用い屋根瓦を葺いた家が選好度の高い家の第1条件としてあろう。確かに、実際に建築されている家をもつてもこの要件を満たしたものがほとんどである。日本のプレハブ的な工業化住宅はまったくといってよいほどみられない。この2つ以外の材料となると支持率がやや低下する。しっくい、銅板を5割前後の人があげており、上述の2つと合わせると、チロール農村に一般にみられる家屋様式に合致する。なお、ガラスは37%~48%とやや減るものの一定数の支持がある。れんが、鉄、アルミニウムなどの素材は、基本的に忌避されているといえよう。性差があるのは、ガラスで女性がやや多い点、銅板やコンクリートで男性がやや多くなる傾向がある点である。

最後に農村景観にとって家屋自体とともに重要な要素となる垣あるいは柵の形態の好みを検討した（第18表）。基本的に生け垣への指向が根強いことが明らかである。両村ともに、生け垣だけで約70%と圧倒的な支持を集める。ナッターズ村では、1mの高さの生け垣と2mの高さの生け垣が20名と19名とほぼ同数である。ムッターズ村では、ナッターズ村と異なり、2mの高さの生け垣がもっとも多く、42%を占め、1mの高さの生け垣の27%をかなり上回る。生け垣以外では、わずかに木柵（Jägerzaun）が20%弱を占め目立つ程度である。

以上から、本対象地域では住民の間に集落景観、家屋景観をめぐってかなり共通した評価と選好が存在するといえよう。それは基本的には伝統的な集落景観、チロールに共通する様式の家屋形態を指向していると考えられる。

第18表 垣・柵の形状の好み

1) ナッターズ村

| | 1 mの高さ の生け垣 | 2 mの高さ の生け垣 | 木の格子垣 | 2 mの高さの コンクリート塀 | 木 柵 | 金網の柵 | 計 |
|----------------|----------------|----------------|-------|--------------------|-----|------|----|
| 村 内 出 生 者 | 2 | 4 | 0 | 0 | 2 | 0 | 8 |
| 転入長期居住者(20年以上) | 10 | 4 | 1 | 0 | 3 | 3 | 21 |
| 転入短期居住者(20年未満) | 8 | 11 | 1 | 0 | 4 | 0 | 24 |
| 計 | 20 | 19 | 2 | 0 | 9 | 3 | 53 |

2) ムッターズ村

| | 1 mの高さ の生け垣 | 2 mの高さ の生け垣 | 木の格子垣 | 2 mの高さの コンクリート塀 | 木 柵 | 金網の柵 | 計 |
|----------------|----------------|----------------|-------|--------------------|-----|------|----|
| 村 内 出 生 者 | 1 | 4 | 2 | 0 | 5 | 0 | 12 |
| 転入長期居住者(20年以上) | 6 | 8 | 1 | 1 | 3 | 1 | 20 |
| 転入短期居住者(20年未満) | 5 | 7 | 0 | 0 | 1 | 0 | 13 |
| 計 | 12 | 19 | 3 | 1 | 9 | 1 | 45 |

注：「どの垣・柵があなたの好みですか」

資料：アンケート調査結果（1994年実施）

2. 自村の景観についてのイメージと評価

次に自村の景観に対して抱いている村民のイメージを検討する。ここでは村民すべてが評価可能と考えられる村の中心部（Dorf Kern）のみを対象とし、セマンティック・ディファレンシャル法（SD法）による調査を実施した。この方法は、「美しいー見苦しい」、「変化に富んだー単調な」のように両極性をもつ形容詞対をあらかじめ調査対象者に与え、それらにそって景観への印象を評定してもらうものである。第5図のように1から5まで5つの評点があってそれらから選択する形をとる。どちらの形容にも偏らない平均的な評定が3であり、5あるいは1に向かうほどそれぞれの形容への強い肯定的な評価となる。その結果を表したのが、第5図と第6図である。円の大きさは構成比（%）を表す。

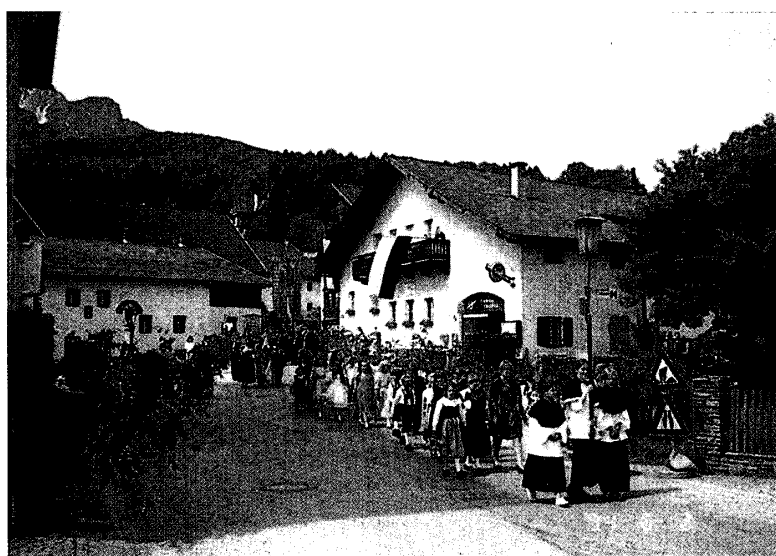
まず各村中心部の景観に対するイメージを概観してみよう。両村に共通するのは、「愛想の良い」、「なじみのある」、「有用な」、「楽な」、「農村的な」、「明るい」、「見極めがつく」、「自然な」である。そこから導き出される共通の景観像は、農村的で自然が豊かであり、なじみがあるが決して匿名的ではないものである。そして、そうした景観に対しては、明るく、楽で、愛想の良いといった強い肯定的評価が与えられていることもわかる。そこには、既に述べた一般的な農村景観の評価との一致がみられるが、さらに進んでチロルに広くみられる伝統的農村景観に対する強い肯定的評価があることが理解される。

しかし、他方でナッターズ村とムッターズ村の間には異なる評価が存在することも事実である。ムッターズ村が美しく、変化に富み、魅力的であるのに対し、ナッターズ村は見

写真B ナッターズ村の景観



写真B-1 ナッターズ村中心部への入り口付近。教会の塔のあるところが集落の中心部。左後方の山腹に樹木のない空閑地が見えるのは、隣村ムッターズ村のスキー場である。奥の雪を頂いた山はNockspitze (2,403m)。(著者撮影)

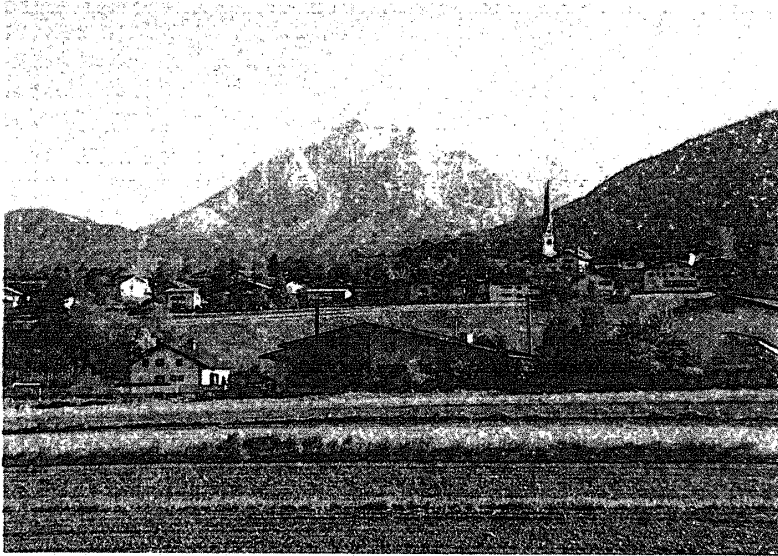


写真B-2 ナッターズ村中心部の広場。統一的な景観整備が行われた形跡はない。この写真には出ていないが、広場に隣接して空閑地や、やや荒廃した家屋もみられる。行列はキリスト教の行事聖体祭を祝う村人たち。(著者撮影)



写真B-3 ナッターズ村中心部にある伝統的な形態の農家。屋根の上の十字架、チロルによく見られる壁絵が印象的である。ナッターズ村でもこのような古いスタイルの農家は数少ない。(著者撮影)

写真C ムッターズ村の景観



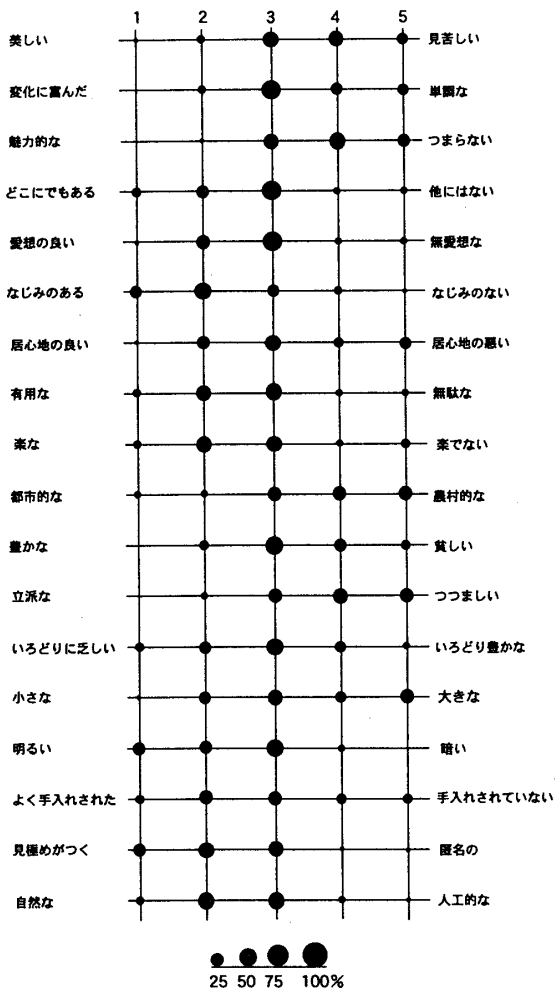
写真C-1 北から見たムッターズ村の集落。手前の低い部分はナッターズ村で、教会の尖塔が見える一段上がった高い所にある集落がムッターズ村の中心部。後方の山はSerles (2,718m)。(著者撮影)



写真C-2 ムッターズ村の中心部にある Dorfstrasse の町並み。伝統的なスタイルの農家が並ぶ。(著者撮影)

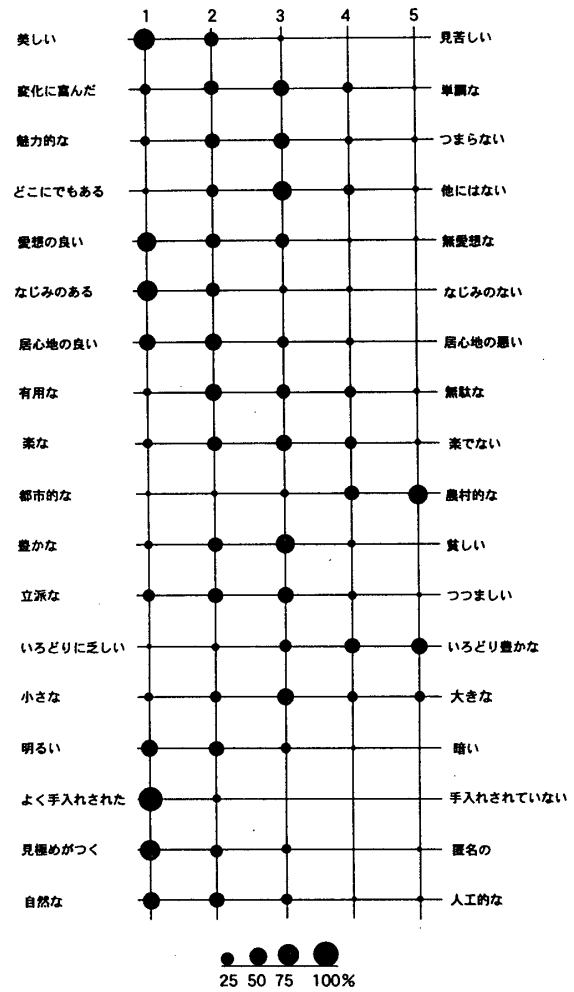


写真C-3 ムッターズ村のドルフエアノイエリング事業実施箇所。直線道路をやや狭くし、かつ屈曲させている。それによって空いた面積を歩道や緑地にあて、さらに街路樹の植栽とベンチの設置を行った。(著者撮影)



第5図 ナッターズ村中心部についての景観評価

資料：アンケート調査結果（1994年実施）



第6図 ムッターズ村中心部についての景観評価

資料：アンケート調査結果（1994年実施）

苦しく、単調で、つまらないと評価されている。さらに、ムッターズ村は豊かで、立派で、いろどり鮮やかで、よく手入れされているとみられているのに対し、ナッターズ村は貧しく、つましくて、いろどりに乏しく、手入れがあまりされていないとみられている。このようなイメージは、写真B-2、写真C-2の実際の中心部の景観写真を概ね反映したもののといえよう。ムッターズ村の中心部は街路沿いの農家がよく保全され、統一的景観をなしているのに対し、ナッターズ村ではそのような保全が面として意図的に行われておらずやや雑然とした印象を与える。このようなナッターズ村の実態に対して、村民自身がきびしく的確に評価していることが注目されよう。むしろ、そこで問題となるのは、このような認識があるにもかかわらずナッターズ村で景観保全事業に積極的な取り組みが行われないのはなぜかということである。

この点に関連して、ナッターズ村の場合、いろどりと手入れについては評価が分かれて

いることが重要である。回答者の属性とのクロスを行ったところ、いづれに於いては、村内出生者にいづれに豊かとする者は皆無であったのに対して、転入者にはむしろ一定数みられたこと、年齢層では40歳未満でいづれに豊かとする者が皆無に等しいのに対し、40歳台、50歳台の層では一定数みられることなどが判明した。他方、手入れに関しては、観光関係者で手入れされていないとする比率が高かったが、それ以外の属性との間には特に明瞭な関係は見出せなかった。以上から示唆されるように、新旧住民の混住化の進んだナッターズ村では、住民の間に景観に対する見解についてばらつきがあることが示唆される。そこで、次に景観保全に関する意識の検討に移りたい。

VI. 景観保全に関する意識と地域社会

1. 景観保全に関する意識

チロルでは近年景観保全への取り組みが活発になり、特に集落の中心部では古い家屋の改修と保全が盛んに行われている。この点、本対象地域のうちムッターズ村では、村中心部のメインストリートの家屋景観を保全し、この美しい景観が観光客を引きつける1要素にもなっている。これと対照的に、ナッターズ村ではそのような目立った景観保全の事業が行われなかった。

そこで、設問ではまず、「ナッターズ村（あるいはムッターズ村）には、どの村とも同様に多くの古い家屋があります。古い家屋は取り壊されるべきとする人もあれば、可能な限り保存すべきであるとする人もいます。」と断っておいた上で、保全についての見解を質問した（写真B-3参照）。

まず、古い家屋を保存すべきかどうかについては、ナッターズ村では取り壊しは1名があげただけで55名という圧倒的多数が保存に賛意を示した。ムッターズ村でも1名を除く46名が保存派である。保存の理由としては、「それらは村全体の景観を形作っているから」とする者がもっとも多い（第19表）。ナッターズ村、ムッターズ村ともに、30名を超え保存賛同者の70%以上に及ぶ。このことから、村全体の景観に古い家屋の景観が欠かせないとの認識が広く醸成されているといえる。このほかでは、「それらは多くの雰囲気（気持ちよさ、住み心地のよさ）をもっているから」がナッターズ村で20名、ムッターズ村で14名に達し、少なからぬ人が古い家屋の景観を心地よい雰囲気をもつと捉えていることがわかる。この2者に続くのは、「新しい家より美しいから」というもので、古い家屋の美的価値を高く評価している。また「多くの思い出があるから」という回答もやや少ないながらもあり、古い家屋を保存しようというベクトルが多面的であることが知られる。しかも、

第19表 古い家屋を保存する理由（複数回答可）

1) ナッターズ村

| | 「それらは多くの雰囲気 (気持ちよさ、住み心地の よさ)をもっているから」 | 「それらは村全体 の景観を形作って いるから」 | 「それらは新 しい家より 美しいから」 | 「それらには 多くの思い出 があるから」 | 総計 | 実回答者数 |
|----------------|---|-------------------------------|---------------------------|----------------------------|----|-------|
| 村 内 出 生 者 | 3 | 4 | 2 | 1 | 10 | 7 |
| 転入長期居住者(20年以上) | 7 | 14 | 5 | 1 | 27 | 18 |
| 転入短期居住者(20年未満) | 10 | 17 | 2 | 2 | 31 | 24 |
| 計 | 20 | 35 | 9 | 4 | 68 | 49 |

2) ムッターズ村

| | 「それらは多くの雰囲気 (気持ちよさ、住み心地の よさ)をもっているから」 | 「それらは村全体 の景観を形作って いるから」 | 「それらは新 しい家より 美しいから」 | 「それらには 多くの思い出 があるから」 | 総計 | 実回答者数 |
|----------------|---|-------------------------------|---------------------------|----------------------------|----|-------|
| 村 内 出 生 者 | 3 | 8 | 4 | 4 | 19 | 11 |
| 転入長期居住者(20年以上) | 7 | 16 | 4 | 4 | 31 | 20 |
| 転入短期居住者(20年未満) | 4 | 10 | 3 | 2 | 19 | 13 |
| 計 | 14 | 34 | 11 | 10 | 69 | 44 |

注：設問「古い家を可能な限り保存すべきであるとする場合、その理由は何ですか？」（複数回答可）
資料：アンケート調査結果（1994年実施）

住民の居住歴による回答の違いは特に認められない。

景観の保全や整備という点で近年大きな成果をあげているのがドルフエアノイエリング（村落景観改善事業）である。ここでその事業の内容を簡単に説明しておこう。チロルでは古い家屋の改修と保全など景観保全に熱心に取り組まれるようになってきたが、こうした動きを促進しているのが、内発的な地域政策であるドルフエアノイエリング政策である。1985年から統一性の中の多様性（自然の独自性、社会文化的自立性）を守り育てることを目的に開始されたが、チロル州のそれはオーストリアでも早い方であった。特に多いのは古い家屋の修復や中心部の景観整備で、インフラストラクチャーと景観整備の接点にこの施策が位置づけられる。ムッターズでもドルフエアノイエリング事業が実施され、メインストリートの改修を行った（写真C-3参照）。交通の危険をおさえるため、スピードを出しにくくするため、道を狭くし、少し曲がらせ、歩道をつけ、植樹、ベンチなどを置いて修景を施した。

「今日多くの村がドルフエアノイエリングプログラムに取り組み、修復を行っています。あなたは個人的にドルフエアノイエリングについてどのように思いますか。」との質問に対し、両村ともに、「それは村をより魅力的にする」がもっとも多数を占め、ドルフエアノイエリングについて肯定的な捉え方が多いことがわかる（第20表）。ナッターズ村で31

第20表 ドルフェアノイエリングの意義 (複数回答可)

1) ナッターズ村

| | 「それは村を より魅力的 にする」 | 「それはよくする よりもだめにす る方が多い」 | 「村のためにそのよ うなことがなされ るべき時である」 | 「それは高くつく だけで何ももた らさない」 | 「わからない」 | その他 | 総計 | 実回答者数 |
|----------------|-------------------------|-------------------------------|-----------------------------------|------------------------------|---------|-----|----|-------|
| 村 内 出 生 者 | 3 | 0 | 3 | 0 | 2 | 0 | 8 | 7 |
| 転入長期居住者(20年以上) | 14 | 1 | 8 | 1 | 0 | 0 | 24 | 21 |
| 転入短期居住者(20年未満) | 14 | 1 | 4 | 4 | 1 | 1 | 25 | 23 |
| 計 | 31 | 2 | 15 | 5 | 3 | 1 | 57 | 51 |

2) ムッターズ村

| | 「それは村を より魅力的 にする」 | 「それはよくする よりもだめにす る方が多い」 | 「村のためにそのよ うなことがなされ るべき時である」 | 「それは高くつく だけで何ももた らさない」 | 「わからない」 | その他 | 総計 | 実回答者数 |
|----------------|-------------------------|-------------------------------|-----------------------------------|------------------------------|---------|-----|----|-------|
| 村 内 出 生 者 | 5 | 2 | 0 | 7 | 0 | 0 | 14 | 12 |
| 転入長期居住者(20年以上) | 12 | 1 | 4 | 0 | 0 | 1 | 18 | 18 |
| 転入短期居住者(20年未満) | 11 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 14 | 13 |
| 計 | 28 | 4 | 6 | 7 | 0 | 1 | 46 | 43 |

注：設問「今日多くの村がドルフェアノイエリングプログラムに取り組み、修復を行っています。
あなたは個人的にドルフェアノイエリングについてどのように思いますか。」(複数回答可)
資料：アンケート調査結果 (1994年実施)

名、ムッターズ村で28名、それぞれ回答者の約60%に達する。次に注目されるのは、「村のためにそのようなことがなされるべき時である」でナッターズ村で約30%を占めムッターズ村の14%に比べ格段に多い。これは未だドルフェアノイエリングがナッターズ村では行われていない事情を反映したものと解される。以上はいずれもドルフェアノイエリングへの前向きな意見であるが、否定的な意見も少数ながらみられる。「それは高くつくだけで何ももたらさない」とする者がナッターズ村で5名、ムッターズ村で7名を数える。ドルフェアノイエリングが行われたムッターズ村で15%程度の人がこのように答えていることは、この事業の評価の上で無視できない。さらに「それはよくするよりもだめにする方が多い」という事業への根本的な疑問を呈する者もナッターズ村で2名、ムッターズ村で4名あり、しかも後者で多いことが重要である。「それは高くつくだけで何ももたらさない」と答えた者と居住歴類型との対応では、ムッターズ村では7名全員が村内出生者で、むしろ地付き層から厳しい見方がある。他方、ナッターズ村ではムッターズ村と違って、同じ回答は転入者の短期居住者に多い。また、観光関係者はナッターズ村の1名を除きこのような否定的見解を示していないことにも注意しておく必要がある。

以上から、このドルフェアノイエリング事業に関して大半の住民は肯定的に捉えているが、住民の一部に否定的な見方があることがわかる。それは、この事業がややもすると、古家の改修や集落の修景など技術的な領域の一部に偏り、地域振興のために必要な広範な

第21表 景観保全における農業の役割

1) ナッターズ村

| | 「大変重要である」 | 「重要である」 | 「どちらとも言えない」 | 「重要ではない」 | 計 |
|---|-----------|---------|-------------|----------|----|
| 男 | 23 | 6 | 0 | 0 | 29 |
| 女 | 24 | 3 | 1 | 0 | 28 |
| 計 | 47 | 9 | 1 | 0 | 57 |

2) ムッターズ村

| | 「大変重要である」 | 「重要である」 | 「どちらとも言えない」 | 「重要ではない」 | 計 |
|---|-----------|---------|-------------|----------|----|
| 男 | 16 | 6 | 2 | 0 | 24 |
| 女 | 19 | 3 | 0 | 0 | 22 |
| 計 | 35 | 9 | 2 | 0 | 46 |

注：設問「あなたは景観保全における農業の役割についてどのように考えますか」

資料：アンケート調査結果（1994年実施）

取り組みになり得てないという批判と重なるものであろう。景観整備が今後必要な箇所を本アンケートで尋ねたところ、ナッターズ村では村の中心部、さらには村全体をあげた者が目立ったが、ムッターズ村では散歩道と森林の整備が多数を占めた。このことからいえるのは、両村の違いが明瞭であるというだけでなく、ドルフエアノイエリング自体により広範な内容を持つことが求められていることであろう。

この2村において景観面で大きな構成要素となっているのが農地である（写真C-1参照）。そこで、景観保全（Landschaft Pflege）における農業の役割について質問したところ、大変重要とする者が大部分を占めた（第21表）。ナッターズ村で47名、ムッターズ村で35名に及び、いずれも全体の80%近くに達している。重要とする者も20%弱あり、明確に重要でないと答えた者は皆無であった。景観保全に果たす農業の役割については、住民の間にそれを高く評価する共通認識が存在することが明らかである。

2. 地域社会の構成と意識

ドルフエアノイエリングに代表されるように、チロールでは景観保全を内発的に行い、またこうした事業をもとに地域アイデンティティを醸成していこうという動きがみられる。その場合、村の下位に日本のような町内会的組織がないだけに、近隣社会がいかなる性格をもつのかをみておく必要がある。

まず、すぐ近くに住む隣人の認知度に関しては、総じて高いレベルにある（第22表）。ただし、ナッターズ村とムッターズ村には若干の相違がある。ナッターズ村では「よく知っている」が29名でもっとも多く、「大変よく知っている」が20名でそれに次ぐ。他方、「ほ

第22表 隣人の認知度

1) ナッターズ村

| | 「大変よく知っている」 | 「よく知っている」 | 「ほとんど知らない」 | 「まったく知らない」 | 計 |
|----------------|-------------|-----------|------------|------------|----|
| 村 内 出 生 者 | 3 | 5 | 0 | 0 | 8 |
| 転入長期居住者(20年以上) | 8 | 12 | 1 | 0 | 21 |
| 転入短期居住者(20年未満) | 9 | 12 | 2 | 1 | 24 |
| 計 | 20 | 29 | 3 | 1 | 53 |

2) ムッターズ村

| | 「大変よく知っている」 | 「よく知っている」 | 「ほとんど知らない」 | 「まったく知らない」 | 計 |
|----------------|-------------|-----------|------------|------------|----|
| 村 内 出 生 者 | 7 | 5 | 0 | 0 | 12 |
| 転入長期居住者(20年以上) | 10 | 9 | 0 | 0 | 19 |
| 転入短期居住者(20年未満) | 10 | 3 | 1 | 0 | 14 |
| 計 | 27 | 17 | 1 | 0 | 45 |

注：設問「すぐ隣の住人をあなたは知っていますか」

資料：アンケート調査結果（1994年実施）

ほとんど知らない」が3名、「まったく知らない」が1名あり、計4名のうち3名は転入短期居住者である。他方、ムッターズ村では「大変よく知っている」が27名、約60%もあり、「よく知っている」の17名を大きく上回っている。近隣の認知度ではムッターズ村がナッターズ村を大きく上回っているといえよう。

このように認知度が高い近隣社会において「よい近隣関係」を意味するものは何であろうか（第23表）。両村ともに、「互いの付き合い」をあげる者が圧倒的に多い。ナッターズ村ではそれが41名と圧倒的に多く、「非常時の援助」がかなり離れて11名でそれに次ぐ。ムッターズ村でも「互いの付き合い」が38名と圧倒的に多いが、やはり「非常時の援助」がかなり離れて7名でそれに次ぐ。これらに対し、「祭りをともに祝うこと」や「家を建てる時の助力」といった濃密な関係をあげる者はほとんどみられない。その意味で、近隣関係は村内の他の社会関係に比べて特別に強い役割をもつとは想定できない。

さらに近隣を超えた地域社会との関わりをみるため、いくつかの団体（Verein）の会員になっているかを質問した⁵⁾。まったくどの団体にも属していないとしたのは、ナッターズ村で約50%、ムッターズ村で約40%であり、残りの方々は1つから最高5つの団体に属しているが、その中で多いのは1つあるいは2つの団体に属する人々である。このような団体を軸とした活動も地域社会にとって重要な意味を持つことが予想される。

チロルは敬虔なカトリック信者の多いところとして知られており、今でも村をあげて教会行事を行うことが多い。しかし、本アンケートの回答者をみる限り、いつも教会に出か

第23表 良好な近隣関係についての見解

1) ナッターズ村

| | 「互いの付き合い」 | 「非常時の援助」 | 「隣人に休息を妨げられないこと」 | 「祭りをともに祝うこと」 | 「家を建てる時の助力」 | 計 |
|---|-----------|----------|------------------|--------------|-------------|----|
| 男 | 20 | 8 | 0 | 1 | 0 | 29 |
| 女 | 21 | 3 | 0 | 0 | 0 | 24 |
| 計 | 41 | 11 | 0 | 1 | 0 | 53 |

2) ムッターズ村

| | 「互いの付き合い」 | 「非常時の援助」 | 「隣人に休息を妨げられないこと」 | 「祭りをともに祝うこと」 | 「家を建てる時の助力」 | 計 |
|---|-----------|----------|------------------|--------------|-------------|----|
| 男 | 20 | 3 | 1 | 0 | 0 | 24 |
| 女 | 17 | 4 | 1 | 0 | 0 | 22 |
| 計 | 37 | 7 | 2 | 0 | 0 | 46 |

注：設問「あなたにとって「良好な近隣関係」を意味するものは何ですか」

資料：アンケート調査結果（1994年実施）

第24表 定期的な教会参拝者

1) ナッターズ村

| | はい | いいえ | 答えたくない | 計 |
|----------------|----|-----|--------|----|
| 村内出生者 | 4 | 4 | 0 | 8 |
| 転入長期居住者(20年以上) | 13 | 8 | 0 | 21 |
| 転入短期居住者(20年未満) | 8 | 17 | 0 | 25 |
| 計 | 25 | 29 | 0 | 54 |

2) ムッターズ村

| | はい | いいえ | 答えたくない | 計 |
|----------------|----|-----|--------|----|
| 村内出生者 | 6 | 6 | 0 | 12 |
| 転入長期居住者(20年以上) | 5 | 10 | 4 | 19 |
| 転入短期居住者(20年未満) | 4 | 10 | 0 | 14 |
| 計 | 15 | 26 | 4 | 45 |

注：設問「あなたはいつも教会に参拝していますか」

資料：アンケート調査結果（1994年実施）

ける人は40%前後で、行かないとする人を下まわっている（第24表）。ただ、その場合もナッターズ村の方がムッターズ村より参拝率が高いことが指摘できる。前者では25名で全体の半分弱に達しているのに対し、ムッターズ村は15名で30%弱に留まる。

インスブルックに近いため、これらの村では新来者の流入が著しい。いわゆる新旧住民の混住化が進んでいるが、これがこの地域社会にいかなる状況をもたらしているかについても探ってみる必要がある。旧住民が新住民をどのように捉えているかという点、肯定的

第25表 新来者への評価

1) ナッターズ村

| | 「かれらは私にはどうでもいい」 | 「かれらは村に合わない」 | 「かれらは村に喧噪をもちこむ」 | 「新風」を村に吹き込んでくれるのなら、よいことだ」 | 「かれらとはよく知り合った仲である」 | 「かれらと仲良くやっていける」 | 「かれらは自分の生活をもっていて、村とは接触しようとしたくない」 | その他 | 計 |
|---|-----------------|--------------|-----------------|---------------------------|--------------------|-----------------|----------------------------------|-----|----|
| 男 | 2 | 0 | 0 | 4 | 6 | 1 | 7 | 0 | 20 |
| 女 | 2 | 0 | 1 | 2 | 7 | 2 | 1 | 0 | 15 |
| 計 | 4 | 0 | 1 | 6 | 13 | 3 | 8 | 0 | 35 |

2) ムッターズ村

| | 「かれらは私にはどうでもいい」 | 「かれらは村に合わない」 | 「かれらは村に喧噪をもちこむ」 | 「新風」を村に吹き込んでくれるのなら、よいことだ」 | 「かれらとはよく知り合った仲である」 | 「かれらと仲良くやっていける」 | 「かれらは自分の生活をもっていて、村とは接触しようとしたくない」 | その他 | 計 |
|---|-----------------|--------------|-----------------|---------------------------|--------------------|-----------------|----------------------------------|-----|----|
| 男 | 0 | 0 | 0 | 1 | 13 | 0 | 3 | 2 | 19 |
| 女 | 5 | 0 | 1 | 3 | 7 | 1 | 0 | 0 | 17 |
| 計 | 5 | 0 | 1 | 4 | 20 | 1 | 3 | 2 | 36 |

注：設問「あなたはこの村へ移住してきた人について、どのように考えていますか」

資料：アンケート調査結果（1994年実施）

な見解の方が多いものの、やはり両者間に葛藤が存在する（第25表）。ナッターズ村では評価は分散しているが、「かれらと仲良くやっていける」が40%弱と最も多く、その他の肯定的な評価も合わせると回答者の60%以上に達する。他方、否定的な評価は残りの約40%を占めていて、「かれらは自分の生活をもっていて、村とは接触しようとしたくない」が8名と最も多く「かれらは私にはどうでもいい」も4名あって、新来者への評価は大きく二分されているといえよう。ムッターズ村では、「かれらと仲良くやっていける」が半分を超えており、その他の肯定的意見を足すと25名になり70%近くになる。ムッターズ村は、都市化のより進んだナッターズ村に比べ肯定的な意見が10%以上多いことが注目される。性別にみて目立つのは、「かれらは自分の生活をもっていて、村とは接触しようとしたくない」がすべて男子であることで、男の場合、職場とのつながりの強さがこのような評価を招いているとの推測も可能であろう。

観光地化の進行により、地域社会に対しても観光客が影響を与えていることが予想される。それゆえ、住民が観光客についてどのように考えているかをみておく必要がある（第26表）。基本的には肯定的に捉える答えが圧倒的に多い。観光化のより進んだムッターズ村では、「かれらは村に利益をもたらしてくれるからよい」という実利的な考えが60%以上あり、続いて「かれらと仲良くやっていける」が37%で、この2つの意見でほぼ100%にも達する。ナッターズ村でも「かれらは村に利益をもたらしてくれるからよい」が最も多いが40%強に留まり、むしろ「かれらと仲良くやっていける」が僅差でそれに続く。

第26表 観光客への評価（複数回答可）

1) ナッタース村

| | 「かれらは村に利益をもたらしてくれるからよい」 | 「かれらは村に喧噪をもちこむ」 | 「[新風]を村に吹き込んでくれるのなら、よいことだ」 | 「かれらとは仲良くやっ ていける」 | 「かれらは子供や若者に悪い影響を及ぼす」 | 「かれらはプライベートな領域を侵犯する」 | 総計 | 実回答者数 |
|----------------|-------------------------|-----------------|----------------------------|-------------------|----------------------|----------------------|----|-------|
| 村 内 出 生 者 | 3 | 0 | 2 | 2 | 0 | 0 | 7 | 7 |
| 転入長期居住者(20年以上) | 11 | 0 | 5 | 7 | 0 | 0 | 23 | 20 |
| 転入短期居住者(20年未満) | 9 | 3 | 2 | 11 | 0 | 1 | 26 | 23 |
| 計 | 23 | 3 | 9 | 20 | 0 | 1 | 56 | 50 |

2) ムッタース村

| | 「かれらは村に利益をもたらしてくれるからよい」 | 「かれらは村に喧噪をもちこむ」 | 「[新風]を村に吹き込んでくれるのなら、よいことだ」 | 「かれらとは仲良くやっ ていける」 | 「かれらは子供や若者に悪い影響を及ぼす」 | 「かれらはプライベートな領域を侵犯する」 | 総計 | 実回答者数 |
|----------------|-------------------------|-----------------|----------------------------|-------------------|----------------------|----------------------|----|-------|
| 村 内 出 生 者 | 6 | 1 | 0 | 4 | 0 | 0 | 11 | 11 |
| 転入長期居住者(20年以上) | 14 | 0 | 0 | 6 | 0 | 0 | 20 | 19 |
| 転入短期居住者(20年未満) | 8 | 0 | 0 | 7 | 0 | 0 | 15 | 14 |
| 計 | 28 | 1 | 0 | 17 | 0 | 0 | 46 | 44 |

注：設問「あなたは、この村を訪れる観光客についてどのように考えていますか」（複数回答可）

資料：アンケート調査結果（1994年実施）

「[新風]を村に吹き込んでくれるのなら、よいことだ」という積極的な交流による村への貢献を期待するのが9名あるのはムッタース村と異なるナッタース村の特徴である。以上のプラス面に対しマイナス面を指摘するのはごくわずかで、「かれらは村に喧噪をもちこむ」や「かれらはプライベートな領域を侵犯する」がナッタース村で4名、ムッタース村で1名みられるのみである。しかも、「かれらは子供や若者に悪影響を及ぼす」に至ってはまったくないことが注目される。以上から、この2村では観光地化が進みながらも、地域社会に悪影響があるとの認識は相対的に少なく、肯定的意見が大半を占めることが明らかである。これは岡橋（1995）で述べた小規模分散型の観光化というチロルの特質が寄与していると考えられる。

本対象地域では、近隣の認知度も高く、団体への参加や伝統的な教会との関わりも存在していて、伝統的な小規模ゲマインデを単位とした地域社会の求心性は未だ強いように思われる。都市化・観光化の進行にもかかわらず、住民は新来者や観光客を地域社会に刺激を与え活性化するものと肯定的にみている点も注目に値する。こうしたことは、都市化・観光化の激しい進行がある程度抑制されているためだけでなく、既にみた景観面をはじめとした伝統的様式への指向が新旧住民を問わず共有されていることによるところが大きいように思われる。

VII. おわりに

本稿では、オーストリアアルプスの2つの村を対象に、住民へのアンケート調査の手法を用いて、農村景観に対する住民意識の検討を行った。サンプルの数が少ないため安易に一般化することは慎まなければならないが、いくつかの重要な知見を得たのでまとめておきたい。

まず第1に、住民が現住村での生活を高く評価していること、また農村生活一般についても肯定的な評価を与えていることが判明した。ただし、新住民には転入理由から示唆されるように、農村生活の魅力を重視するものと必ずしもそうでないものといったばらつきがある。第2に景観の評価や選好の検討により、新旧住民を問わず、集落景観や家屋景観をめぐる住民の間に共通の指向がみられることが明らかとなった。それは基本的にはチロルに共通する伝統的な集落景観や家屋様式への指向であると考えられる。第3に、このような景観意識は住民の間に広く普及する日常の余暇行動、特に農村空間を舞台とするハイキング・散歩、庭仕事などによっても醸成されている面があると推測される。第4に、伝統的な小規模ゲマインデが維持され、それを基礎に地域社会の求心性が保たれており、このことも景観意識の共同性を支えているものと思われる。第5に、景観の保全や整備にはドルフエアノイエリングのような政策による対応が行われているが、これについては大半の住民は肯定的に捉えているものの、住民の一部に否定的な見方があることも判明した。それは、この事業がややもすると、古家の改修や集落の修景など技術的な領域に偏りがちで広範な地域整備の問題にできていないこととも関係していると考えられる。

本研究はアンケート内容の分析が中心となり、やや表面的な考察となったきらいがある。それゆえ、当初考えていたナッタース村とムッタース村の間の相違の要因も十分明らかにすることができなかった。本稿で問題にしたような景観意識と景観保全の関係を追究するには、ドルフエアノイエリングや、農業経営のあり方、宅地開発のプロセスなどについてさらに考察を深めることが必要であろう。また方法論的には、Demmler-Mosetter (1993)の少数の調査対象者への精細なインタビューによる調査などをはじめ興味深い先行事例の検討が有用であろう。以上を今後の課題として筆を擱きたい。

付記

本研究は、筆者が1994年に日本学術振興会特定国派遣研究者としてオーストリア・インスブルック大学に長期出張した際に行ったものである。その際に、大変お世話になったインスブルック大

学地理学教室の皆様方、面倒なアンケート調査にお答えいただいたナッタース村とムッタース村の住民の方々に、取りまとめが遅くなったことをお詫びしつつ、御礼を申し上げる。

注

- 1) ただし、対象地域のムッタース村は1974年にクライト村を吸収合併している。
- 2) チロル農村における村レベルの観光の実態については、池永 (1999)、スキー観光については Kureha (1995) を参照。
- 3) 5つの類型は次の通りである。①観光中心地 (該当ゲマインデ数11)、②観光化の程度の強いゲマインデ (該当ゲマインデ20)、③冬季の観光が強いゲマインデ (該当ゲマインデ34)、④夏季の観光が強いゲマインデ (該当ゲマインデ76)、⑤観光化の弱いゲマインデ (該当ゲマインデ137)。
- 4) 具体的なドイツ語の形容詞の選択に当たっては、同じくSD法を用いて分析した Schwartz (1992) を参考にした。
- 5) ちなみに、主な団体としてはナッタース村の場合、音楽協会 (Musikverein)、消防団 (Feuerwehr)、観光協会 (Fremdenverkehrsverein)、狩猟協会 (Jagdverein)、慈善協会 (Hilfsverein) などがある。

文 献

- 池永正人 (1999) : オーストリアアルプスにおける山岳観光の発展と山地農民の対応—チロル州フィス村を事例として. 人文地理51, pp.598-615.
- 岡橋秀典 (1995) : アルプス農村の景観とその存立基盤—オーストリア・チロル州の事例から. 持田紀治編『むらまち交流と地域活性化』家の光協会, pp.194-209.
- Amt der Landesregierung (1987): *Typsierung der Tiroler Fremdverkehrsgemeinden: Ergebnisse einer statistischen Analyse*, Amt der Landesregierung.
- Demmler-Mosetter, H. (1993): *Landschaftswahrnehmungen am Grossstadtrand: Sozialgeographische Studien über Individuelle Lebenswelten in einer Ländlichen Gemeinde*, Angewandte Sozialgeographie 31, Lehrstuhl für Sozial- und Wirtschaftsgeographie Universität Augsberg.
- Henkel, G. (1982): *Dorferneuerung*, Ferdinand Schöningh, Paderborn.
- Kureha, M. (1995): *Wintersportgebiete in Österreich und Japan*, Innsbrucker Geographische Studien 24, Instituts für Geographie der Universität Innsbruck.
- Schwartz, J. (1992): *Dorfentwicklung: Wege zur Aktivierung ortseigener Kräfte— Fallstudie Aichstetten/ Oberschwaben*, Angewandte Sozialgeographie 27, Lehrstuhl für Sozial- und Wirtschaftsgeographie Universität Augsberg.

Rural inhabitant's consciousness to the landscape issues and the conservation problem in the Austrian Alps: A Case study of two Tyrolean villages, Natters and Mutters

Hidenori OKAHASHI

The purpose of this paper is to examine the rural inhabitant's consciousness to the landscape issues and the conservation problem in two farming villages in the Austrian Alps. The author discussed on the characteristics of the landscape conservation in Tyrol (Okahashi, 1995). In that paper, he referred to the importance of rural inhabitant's consciousness to the surrounding landscape. Therefore this paper intends to clarify this subjective aspect by employing the method of questionnaire survey.

The results obtained were as follows.

- 1) It was clarified that the inhabitants were satisfied with their present life in the villages and gave an affirmative evaluation about the village life in general.
- 2) It was revealed that there were common trends in inhabitants' evaluation and preference on the settlement and housing landscape, regardless of the old and new comers. The fundamental dimension of their preference was based on the traditional mode of Tyrol.
- 3) It was guessed that such landscape consideration was partly strengthened by their daily leisure activities such as hiking, taking a walk and gardening, most of which were conducted in the surrounding rural space.
- 4) *Gemeinde*, an administrative and conventional unit has survived as a substantive community, playing an important role in the daily life of villagers. The author thought that this also gave some common features to the landscape consciousness.
- 5) *Dorferneuerung*, the most influential program for landscape conservation, was introduced to Tyrolian villages in recent years. It turned out that some inhabitants had a negative view to *Dorferneuerung* project, though the greater part of inhabitants affirmatively caught this one. It was thought that the main cause of their complaint derived from the biased project to the technical spheres, which did not necessarily correspond to the fundamental regional problems to be solved.